

南会津の静かな山で山スキー

南会津 山毛櫛沢山山スキー

2015年の6月の会山行で集中した山毛櫛沢山に厳冬期に行ってみたく、メンバーを募ると野村さんと森山さんがご一緒してくれることに。さらに欲張って稲子山も狙う計画とした。

2月2日(土)：くもり後雪

小岩井の集落から安越又川の方へ少し車で入ったところの工事現場の駐車場に、断りを入れて車を置かせていただく。そこから国道に戻り大久保橋を渡って尾根に取り付く。尾根には若干スキーの後があったので登られている尾根のようだ。昨夜に少し雪が降ったがラッセルはきつくない。登り始めは急で細かくジグを切って登っていく。1088mで稜線にでると傾斜はゆるくなってくるが、小雪が舞い、風が吹いている。山毛櫛沢山という名前だけあって、白い尾根にブナが立派な、南会津らしい綺麗な尾根だ。休憩を入れながら黙々と登り、稜線にでたところで荷物をデポし、



テレマークターンを決める野村さん

100m程で、すぐに芝倉沢に降り立った。想像していたより地形と風の影響を受けて、雪面はボコボコだ。少し下ると、所々雪が割れて沢が出ている。野口が先頭で進んでいるときに、不注意から沢に滑落してしまい、シュリングを出してもらって這い上がったがずぶ濡れ。幕場予定地の小手沢出合が近かったのでそのまま下り、林道跡地に TENT を張り、中で火を焚いて暖をとった。この日は厳冬期にしては寒くなく助かった。

【日程】

2019年2月2日(土)～3日

【メンバー】

Ｌ野口、SL野村、森山

【地形図】内川

【記】野口



ブナ尾根を登る

山毛櫛沢山の山頂を往復。春は緑が生い茂っていて藪の中だった山頂も、冬は雪景色で感慨深い。荷物を背負って、緩い稜線を小手沢山に向かう。小手沢山の山頂は広くのっぺりとしていた。

山頂から少し戻りシールを外し、西側に伸びる尾根を滑り、芝倉沢への下降ポイントを探す。少し滑った先の支尾根が滑れそうだったので、下降開始。程よい斜度で、昨日から降り積もった粉雪を快適に滑る。森山さんは豪快にショートターンを決め、野村さんはパウダーを舞い上げテレマークターンで降りてくる。この快感があるから山スキーはたまらない！快適なのは



粉雪はやめられない！

2月3日(日):晴れ

着ているものも装備も濡れているので寒かったら稲子山は諦めて帰ろう、と話していたが、快晴で暖かいので、予定ルートに行くことに。靴もずぶ濡れだったのでビニール袋を履いてから靴を履いたら靴下が濡れず快適だった。寒かったら冷えていただろうけど。

幕場を出発し、林道跡を登る。ちょうど地図上で林道が無くなるあたりから対岸の尾根に取り付く。快晴で尾根の様子も下から見えており、藪も薄く登りやすそう。取り付いてみるとスキーで登るに快適な尾根。あまりの天気よさに暑くて汗が止まらない。厳冬期とは思えない快適さだ。



稲子山をバックに

標高を上げると、目指す稲子山の向こうに真っ白な三岩岳が見える。青い空に白い山が映える。稲子山に続く稜線は雪庇が発達しており、東側は切れているので少し離れて歩く。稲子山山頂では南会津の大展望を楽しみながらシールを外す。まずは1322mのコルまで滑り降りる。暑さで雪があまり



稲子山山頂から三岩岳を見ながら下る

良くないが、楽しく滑れた。ここからシールをつけて、小沢山へ。シールに雪が着き非常に重い。ラッセルしているような感覚だ。小沢山の東側の1436mのポコでシールを外し。南東に伸びる尾根を下る。途中、急でブッシュが濃いところがあり、降りるのにかなり苦労した。森山さんはすいすい降りていて、流石にうまい。安越又川まで降り、林道を伝って駐車スペースに戻ったが、下りに苦戦して16時となった。沢に落ちたのは大反省だが、厳冬期の稲子山に到達でき、充実した山行となった。

【行程】

2/2 小岩井集落(8:00)～山毛樺沢山(13:00)～小手沢山(13:00)～小手沢出合C1(16:00)

2/3 C1(7:40)～稲子山(11:30)～小沢山(13:20)～小岩井集落(16:00)

